

吉野復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年10月25日(水) 16:11～16:15 於) 塩竈市)

1. 発言要旨

今日、すばらしい魚市場のオープンでございます。

これは、水産業のまち、塩竈市としての復興のシンボル、そういう位置づけでつくられたもの、そう思いました。正に、水産業のまち、塩竈を代表する、特にこの魚市場は、ひさしがあって、高度衛生管理をきちんとやっている。そして展示場や地魚の料理をする施設、食堂や地魚を販売する施設など、多くの市民の方々、また仙台等々から来るお客様と完全に分離をしている施設でございます。

本当にすばらしい施設を見させていただきました。本当にこれからの水産業、震災前までは回復をしておりますけれども、水産業をもっともっと伸ばすような施設になっていただきたい、このように感じております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今回、まだまだ復興というのが進んでいない地域もあると思いますけれども、今回の塩竈市の魚市場というのが完成したということについては、復興を全部考えた上で、どのような位置づけといたしますか、考えていますか。

(答) 各地域によって、復興の進んでいる地域、そして復興の進んでいない地域がございます。でも、すごく進んでいる地域でも、それぞれの課題があるんですね。ですから、その課題を一つ一つ見つけて、復興大臣として課題解決のために尽力する、努力する。こういうステージごとに、幾ら進んでいるまちでも課題があるんです。その課題を一つ一つ解決していく、このように考えております。

(問) こういった形で、インフラの復興という部分は結構進んできたと思うんですけれども、これからの復興の形というのは、大臣どうお考えになっていきますか。

(答) いわゆるハード面は、こういう形で進んでいますけれども、例えば、水産物の販路拡大はというと、まだまだです。塩竈はやっと震災前くらいには来ているんですけれども、もっともっとこれだけの施設なので、販路を拡大していかなければならないというふうに思います。そういう意味でのソフトのところを、そういうところの支援をこれから復興庁としてもやっていきたい、このように考えています。

(以 上)